

授業で実施可能な

縄文文化芸術体験・学習プログラムの提案 と プロジェクトの紹介

2022/3

青森県環境生活部県民生活文化課 / 東京藝術大学美術学部美術教育研究室・工芸科染織研究室

あおり JOMON GYOMOプロジェクト実行委員会



- **学校教育現場等で活用可能なプログラムを作成・実施。**
- 学校でのプログラム実施にとどまらず、青森県を舞台に「縄文文化」をテーマとし、生活文化や美術、教育等を広域に「つなぐ」取組を企画。

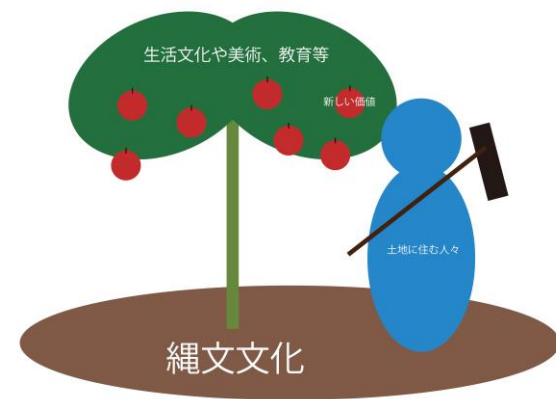


あおもりJOMON GYOMOプロジェクト 青森県×東京藝術大学で令和2年度から始動

※本プロジェクトでの制作物等は歴史的な確証はなく、芸術の観点から当時を想像して実施しているものです。

プロジェクトに込めた思い

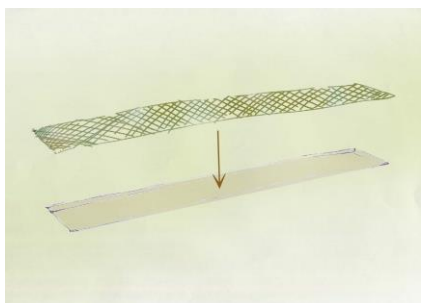
◆本企画を通して「風土に根差した芸術の可能性」を打ち出し、足元に立脚した等身大の文化から得られる新しい芸術価値をそこに住む人間が作り享受することが出来るサイクルを構築する。



【あおもりJOMON GYOMOプロジェクトのサイクル】

4 種をまき、育てる (R4年度)

展示終了後は、種を漉き込んだ和紙を活用し、学校等において、自然（資源）の循環を体感できる植栽体験活動を行う。



植栽

つくる
作品制作

3 漁網作品制作・展示 (R4年度)

制作した「大型漁網作品」を県立美術館に展示予定。来館者に対し、植物の種子を漉き込んだ和紙を制作する体験を行うとともに、制作した和紙を漁網作品に取り付け、参加型作品として展示を完成させる。また、作品の制作者名を表示し、一連の活動を紹介。



展示

『定住』

獲る
食べる

1 漁網作品製作 (R2~4年度)

植物繊維を素材として、個人ごとに小型の漁網作品制作。県内各地の学校の参加。小型の漁網作品を県民協働で連結させ「大型漁網作品」を制作。



2 漁体験 (R4年度)

制作した「大型漁網作品」を使用し、児童・生徒、地域住民等が協働して地引網漁体験を実施。また、捕った魚を参加者で食べるイベントを開催。



素材（植物繊維） について

縄文土器の表面からも想像できるように、また縄の字に代表されるように縄文時代には植物繊維を使った工夫が生活の中に根ざっていた。しかし、経年劣化に弱い繊維質は多くが分解され物として残っていない。考古学的には語られ難かったこの繊維を使った生活文化を今こそ美術の想像力を使ってその深淵を覗き込んでみようと着眼した。

縄文時代は決して未開の時代ではなく、自然と共生した豊かな狩猟採集社会が営まれ、たくましく自然を利用して生活技術を革新してきた絶え間ないイノベーションの時代だった。



材料：苧麻（チョマ、からむし）



縄文ポシエット（約5500年前）
針葉樹の樹皮を網代編みで編んだもの。植物素材の
出土品は全国的に事例が少なく大変貴重。



三内丸山遺跡センター展示より



文化芸術体験・学習プログラム実践報告

これまでの出前教室参加校（令和3年12月末現在）

R 2

【小学校】

青森市立三内西小学校 6年生(81名)
青森市立三内小学校 4年生(54名)
青森市立大栄小学校 3～6年生(18名)

【中学校】

青森市立三内中学校 1年生(127名)、2年生(101名)

R 3

【小学校】

青森市立三内小学校 4年生(46名)
青森市立三内西小学校 6年生(70名)
弘前市立大和沢小学校 6年生(10名)
八戸市立西白山台小学校 6年生(77名)
八戸市立是川小学校 5～6年生(44名)
十和田市立三本木小学校 6年生(100名)

【中学校】

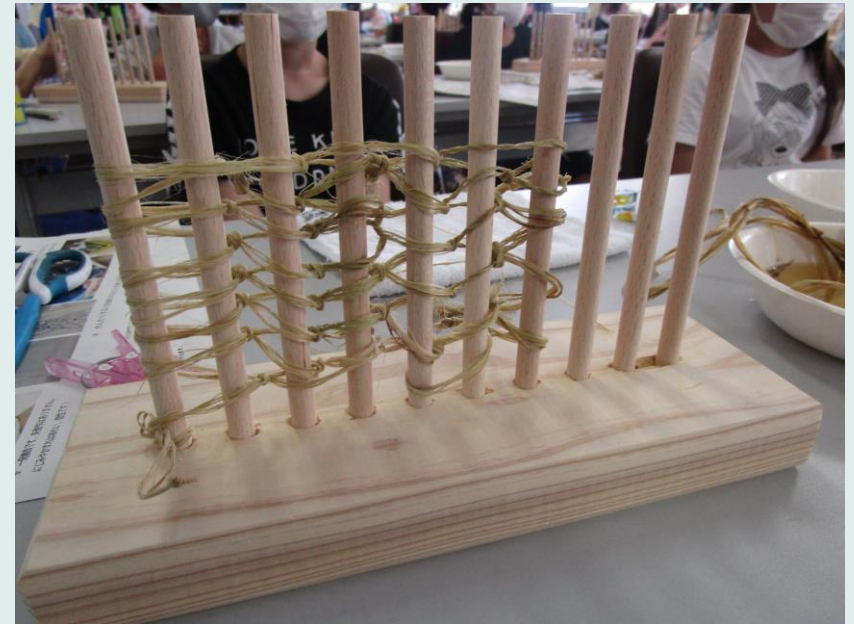
青森市立北中・小学校 中1・小6(56名)
八戸市立下長中学校 1年生(156名)
五所川原市立五所川原第四中学校 2年生(20名)

【高等学校】

青森県立青森中央高等学校 2年生(30名)

【特別支援学校】

青森県立青森聾学校 1～2・4年生(4名)



※その他、全国の学校でも展開

文化芸術体験・学習プログラム実践報告

JOMON GYOMO (漁網作品) をつくろう！

学習内容と時間（例：45分授業 4 時限）

- 1、導入、制作方法等説明（15分）
- 2、糸縫り（50分）
- 3、編み制作（70分）
- 4、トートバッグ制作（35分）
- 5、鑑賞会とまとめ（10分）

※時間は目安であり、参加者数や進捗状況等に
応じて実施します。

出前教室の実施にあたって

出前教室実施期間 2020（令和2）年度～2022（令和4）年度夏頃まで

対象年齢 小学校低学年以上 *年齢に合わせた授業内容の調整が可能です。

実施場所 例えば、.....、教室・図工室・体育館など
作業ができるスペースが確保できる場所であればどこでも可能です。

主催者が準備するもの	ご準備いただくもの
<ul style="list-style-type: none"> ・指導用の教材資料（動画、配布資料）* ・素材（チュマ・からむし）* ・編み機（編み用の治具）* *すべて参加人数分ご用意します。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ハサミ* ・雑巾* ・水（機洗バケツなど）* *参加者ひとり1つあると望ましいです。

インターネットを用いたリモート実施をご検討の場合は、下記担当者と打ち合わせをし、実施に向けて調整を行います。まずは、お気軽にお問い合わせください。

当日のタイムスケジュール例（3時間*で実施の場合）

1時間目	2時間目	3時間目
糸縫り作業 糸縫り作業手順の説明 導入：プログラムの全体説明	糸縫り作業 編み作業 編み作業手順の説明	編み作業 まとめ・片付け

*詳細は別紙の指導案をご参照ください。
*出前教室は2時間から実施できます。複数日で計4時間の実施なども可能です。

実施までのタイムスケジュール

①お問い合わせ 教育環境生活部 県民生活文化課 ご希望やご相談のうかがいます。	②各団体の スケジュールと開催日時、定員 を照会させていただきます。 ご希望の開催日・時間・場所 に合わせた打ち合わせを行います。	③物品等の準備 開催日に合わせて必要な 物品を調達・データの加工し ます。	④実施 開催地に集まり、参加者 員・指導員スタッフ・教員 講師を交え、内容に打ち 合わせる予定です。	⑤ふりかえり ふりかえり及び今後の事業 運営について報告します。 本プログラムで作成した 作品はご褒美として、2022年 に開催独立美術館での展覧 会で作品を展示します。
---	---	--	--	---

お問い合わせ先
教育環境生活部 県民生活文化課 文化・NPO連携推進グループ
TEL: 017-734-6207 (直) | FAX: 017-734-8048 | E-mail: seikatsu@pref.aomori.jp
あおもり JOMON GYOMO プロジェクト facebook: <https://www.facebook.com/aomorijomongyomo>

あおもり JOMON GYOMO プロジェクト

青森県環境生活部県民生活文化課
東京藝術大学美術学部美術教育研究室・工芸科染織研究室

出前教室 実施校 募集!!

縄文をテーマにした芸術体験



グローバル化や人工知能などの技術革新が急速に進み、予測困難なこれからの時代、子どもたちには自ら課題を見つめ、自ら学び、考え、判断して行動し、よりよい社会や人生を切り拓いていく力が求められています。また、新学習指導要領においても、未知の状況に対応できる「思考力・判断力・表現力」、実社会や生活で生きて働く「知識及び技能」、学んだことを社会や人生で生かそうとする「学びに向かう力、人間性」という3つの資質・能力を一体的に育成することが記載されています。

一方で未来に向かっていく時になぜ「縄文」なのでしょう。厳しい自然環境の中、豊かに生活を営み続けてきた縄文人の創意工夫に満ちた生活文化の中には、答えのない未来を切り拓いていくために必要な力が詰まっています。

この縄文と美術を通じた青森県独自の主体的で対話的な深い学びとなる本「JOMON GYOMO（縄文漁網）プロジェクト」によって、「自分で問いを立て、合意を導き出す力」や「生活・社会と豊かに関われる資質・能力を養う造形的な力」、そして「地域に対する誇りと愛着を培う心」を育成していきます。

本プロジェクトでは出前教室の実施校を募集しています。
参加無料。オンラインによるリモート授業も可能です。
東京藝術大学よりプログラム講師を派遣しています。

1. 導入・制作方法の説明等（目安：15分）



本プログラムの概要説明と、
つくり方の説明を聞き、取
り組む準備をします。

2. 糸撚り（より） * 2人1組で制作する様子（目安：50分）



植物の繊維に撚りかけることで、繊維が糸へと変わっていきます。1人でつくる方法もあります。

3. 漁網作品の制作（目安：70分）



つくり方の映像や手順書をみながら、
一目ずつ編んでいきます。

特製の編み用ジグ（木製）は、
本プログラムのために、
独自に作成しています。

4. トートバッグの制作（目安：35分）



完成した漁網作品に赤又は青のインクをつけ、トートバッグにプリントします。

世界に1つだけのオリジナルトートバッグの完成です。

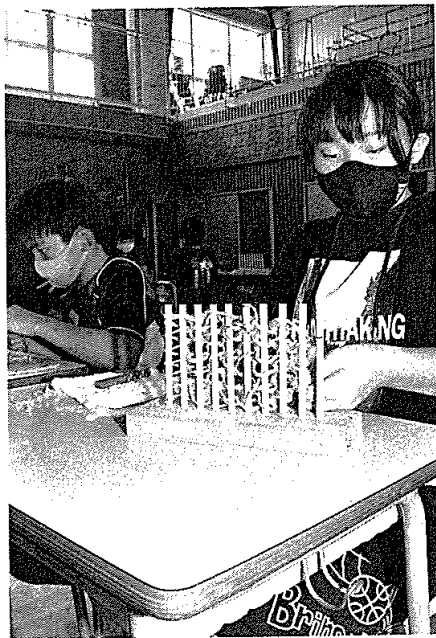
5. 鑑賞会とまとめ（目安：10分）

完成した作品をお互いに鑑賞し、感想などを共有します。



縄文通じ地域愛育む

県と東京芸大 共同事業



青森の小学生 漁網作り体験

子どもたちに縄文文化を通じて地域の文化芸術の魅力を知らせてもらおうと、県は19日、青森市三内の市立三内西小学校で、東京芸術大学と連携した漁網作りの体験学習を開いた。

大が今年から実施する共同事業の一環で、18日から2日間の日程で開かれた。同小6年の約80人はこの日、植物「カラムシ」で作った糸を使用して長さ約20センチの網を制作した。作業には東京芸大の教員や学生も

オンラインで参加し、子どもたちに編み方を指導した。

今後、ほかの学校でも同様の体験学習を実施、子どもたちが作った網をつなぎ合わせて長さ約100センチの巨大漁網を完成させ、地引き網体験を行う予定だ。漁網は県立美術館に展示するという。

参加した片山瑞樹君(12)は「今までやったことのない作業で難しかった。せっかく自分で作ったので実際に魚を捕ってみたい」と話した。

▲漁網作りを体験する子どもたち(19日、青森市で)

【読売新聞(令和2年8月20日)】

縄文の暮らし 想像しよう

植物繊維の糸→網 つなげて漁網に



植物繊維の糸を専用の器具に通して網を編む生徒たち(青森市の三内中)

大東京芸大プロジェクト 小中学生が制作

漁網作りを通じて縄文時代の暮らしにイメージをめぐらせ、親しみでもらおうと、県と東京芸大が「あおもり JOMON GYOMOプロジェクト」を県内学校で実施している。児童生徒が植物繊維で糸を作り、編んだ網をつなぎ合わせ、巨大漁網に仕立てて来年度にも漁をする計画で、担当者は「郷土の文化を学んで愛着を持ってほしい」と、子どもたちの参加を呼び掛けている。

青森

世界遺産登録を目指す「北海道・北東北の縄文遺跡群」の一つ、青森市の三内丸山遺跡に近い三内中(渡邊諭校長)では、9日、小中一貫教育の7年生(中学1年)、8年生(同2年)の計約230人が挑戦した。生徒たちは、同大プロジェクトのために開発した網を編む器具に、植物の「カラムシ」から作った糸をくぐらせ、真剣な表情

で漁網のパーツを編み上げていった。新型コロナウイルス対策のため、この日同大の教員らは来校せず、ビデオ会議システムを使って生徒に指導した。同遺跡でガイドや体験学習の指導をする「三内丸山応援隊」が、現地で制作をサポートした。

同中7年の西城陽生さんは「縄文時代の人も、同じように協力して網を編んでいたのかな」と考えながら作りました。漁網の完成が楽しみと話した。プロジェクトは県と同大美術教育研究室を中心に、同大建築研究室が技術面で支援し、8月から県内小中学校で行っている。今後、一人一人が作った網をつなげて大きな縦2枚、横100枚の漁網にして、漁をした後で展示する予定。

同大の渡邊五大准教授は取材に、植物繊維の網は朽ちてしまえば遺跡から見つかりにくいものの「美術の創造力で補完し、作品として作ってみることができると企画意図を語った。自然と共に生活し、生きる力を、現代の子どもたちにも学んでほしい」とプロジェクトへの参加を呼び掛けた。(新村菜穂)

【東奥日報(令和2年9月25日)】

植物繊維で漁網作り

十和田

十和田市立三本木小（江渡輝校長）で10日、青森県が主催する縄文文化をテーマにした芸術体験プログラム「あおもりJOMON GYOMO（縄文漁網プロジェクト）」の出前教室が開かれ、6年生9人が植物のチヨマ（カラムシ）を使い、縄文人も作ったかもしれない「漁網作り」を体験した。

（田川しのぶ）



植物繊維で漁網作りを体験する児童

三本木小児童が体験「難しい」

県と東京堂大美術教育研究室が連携したプロジェクト。縄文時代と同様の漁網が作られていたかは明らかではないが、縄文文化では縄や編み物で植物繊維の利用が発達していたことから、美術の想像力を取り入れた教育プログラムとして展開している。

出前教室では、同研究室のメンバーがリモートで参加し作り方を指導。児童は水でぬらしたチヨマを裂いてより、糸状にした後、専用の道具を使って編み込み、両手のひらほどの大きさの漁網を作った。また、漁網は真が回収するため、児童はそれぞれが作った漁網にインクを塗って専用トートバッグに形を写し、思いの作品を完成させた。

江渡美利里さん（11）は「編み込みは難しかったけれど夢中になり、ちゃんと完成させることができた」と楽しんだ様子だった。

県によろしく、今後、各校で制作された漁網をつなぎ合わせて実際に地引き網漁に挑戦したり、県立美（青森市）に美術作品として展示したりする予定だ。

【読売新聞（令和3年6月13日）】

縄文人の技術体感

大和沢小 カラムシで漁網作り

弘前

弘前市の大和沢小学校（二本柳淑美校長）の6年生9人は9日、縄文人が魚を捕る際に使っていたと考えられている漁網を作る体験をした。

県や東京芸術大学が主催する「あおもりJOMON GYOMOプロジェクト」の一環として行われた。2022年秋に、ほかの学校などで作った網をつなぎ合わせて実際に漁をすることを計画している。

この日は同大の武内優紀助教がビデオ会議システムを通じて、編み方を教えた。児童たちは、頑丈な繊維を持つ「カラムシ」という植物をより合わせて糸を作り、同大が発明した10本の



縄文時代に使っていたとされる漁網を編む大和沢小学校の児童たち

木の棒が並んだ専用の器具を使って、黙々と漁網を編み込んでいった。一番早くに完成させ、ほかの児童を手伝っていた佐藤輝弥君（12）は「なれると簡単だった。作り方を自分で考えた縄文人はすごいなと思った」、斉藤一貴君（11）は「大変だったけど楽しかった。大きな魚が捕れそう」と話した。

（吉田希望）

【東奥日報（令和3年11月19日）】

令和4年度計画の紹介

①

地引網漁体験

②

青森県立美術館での展示

③

植栽体験



①地引網漁体験

時 期：令和4年5月（試行）及び9月（本番）の休日

対 象：青森県民等

募集方法：県内の学校に対して募集（予定）

一般に対して併せて募集（予定）

場 所：もうらだいすき海岸（平内町茂浦）



②青森県立美術館での展示

時 期：令和4年11月下旬～12月上旬の約2週間（予定）

対 象：青森県民等

入場料：**無料**

場 所：青森県立美術館



③植栽体験

時 期：令和5年2月（予定）
対 象：青森県内の小中校生等
募集方法：県内の学校に対して募集
場 所：県内各学校



取組紹介

「あおもりJOMON GYOMOプロジェクト」と検索してください。

ホームページ（県庁HP）

◆https://www.pref.aomori.lg.jp/bunka/culture/aomori_jomon_gyomo.html



facebook

◆<https://www.facebook.com/aomorijomongyomo/>



糸の作り方・網のつくり方説明動画

◆<https://www.youtube.com/channel/UCc9VvYk38R2wpZioUe9OqPw>



ぜひ、貴校の授業等での本プログラムの実施をご検討いただければ幸甚に存じます。
令和4年度の事業への御参加も大歓迎です。
何卒ご協力の程、よろしくお願いいたします。

本プログラムや講師派遣等についての 問い合わせ先

- ・青森県環境生活部 県民生活文化課

担当：相馬

電話番号 017-734-9207

FAX 番号 017-734-8046

E-MAIL seikatsu@pref.aomori.lg.jp

令和4年度に向けた授業内容の相談もお気軽にご連絡ください。